

### 3 本県観光の直面する課題

#### 外的要因（観光を取り巻く環境の変化）

##### (1) 少子高齢社会の加速

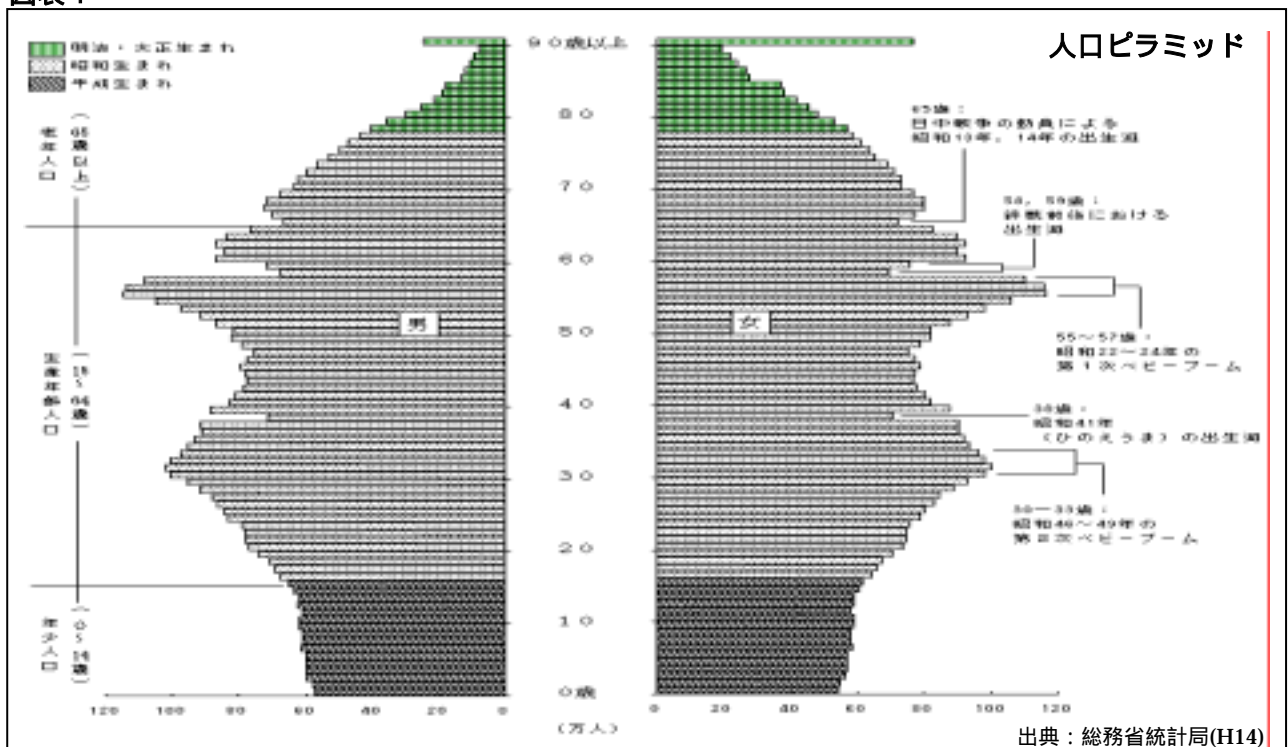
都道府県別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所：平成 14 年）によれば、宮城県の人口は、平成 25 年にピークを迎える推計でありましたが、既にその推計より早く、平成 17 年には人口減少に転じています。全国的にも少子化は加速し、出生率も着実に減少してきています。

年齢別構成比推移（宮城県）においても、60 歳以上の構成率は、1995 年（平成 7 年）に 20.4%（全国 20.5%）であったものが、約 20 年後の 2015 年（平成 27 年）には 29.3%（全国 31.8%）と、全国に比較すればやや低いものの、全体の約 3 割を占めることが推計され、ここ数年の出生率の低下をあわせ考慮すれば、更なる少子高齢社会への加速が予想されます（図表 1～5）。

また、これからの高齢者は、生涯学習への関心の高さやパソコン等情報通信の高度化等への適応力の強さもあり、また、大学等で講義を受けることへの関心も高い傾向があります。（高齢社会対策の推進の基本的在り方について H13 / 内閣府）

こうした状況を踏まえ、元気な高齢者のニーズを的確に把握し、施策展開していく必要があります。

図表 1

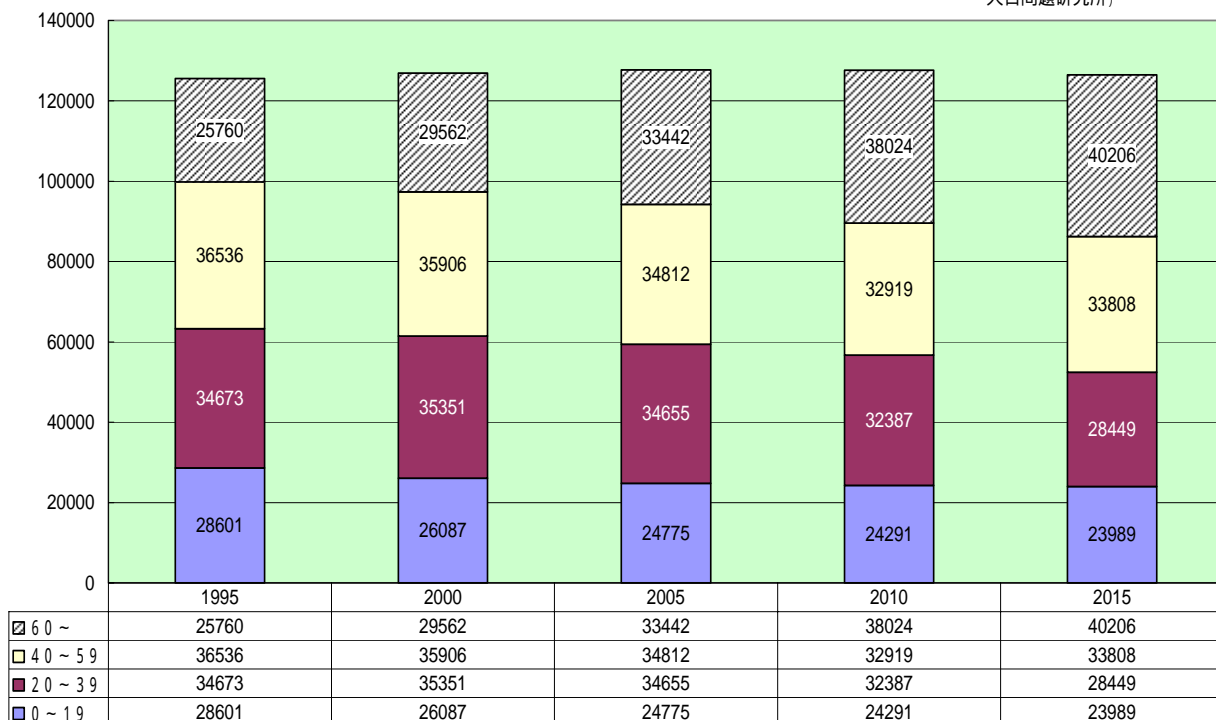


図表 2

推計人口(年齢別人口推移:全国)

単位:千人

出典:推計人口(H14:国立社会保障・人口問題研究所)

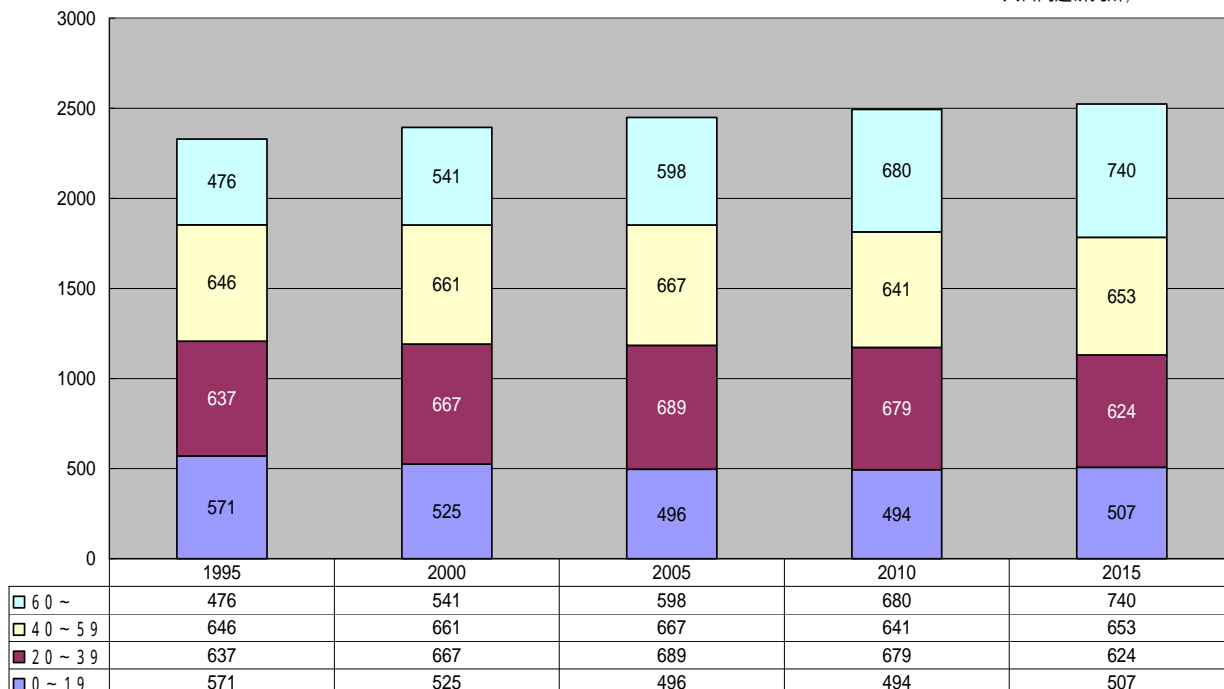


図表 3

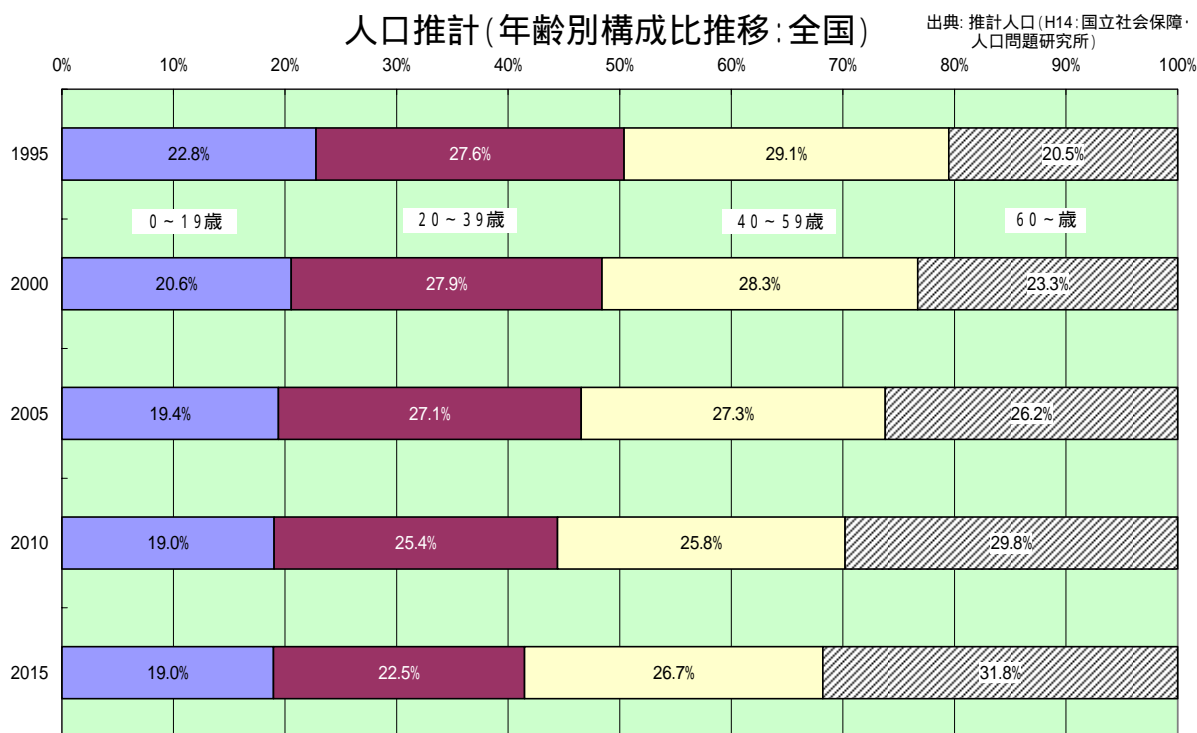
推計人口(年齢層別人口推移:宮城県)

単位:千人

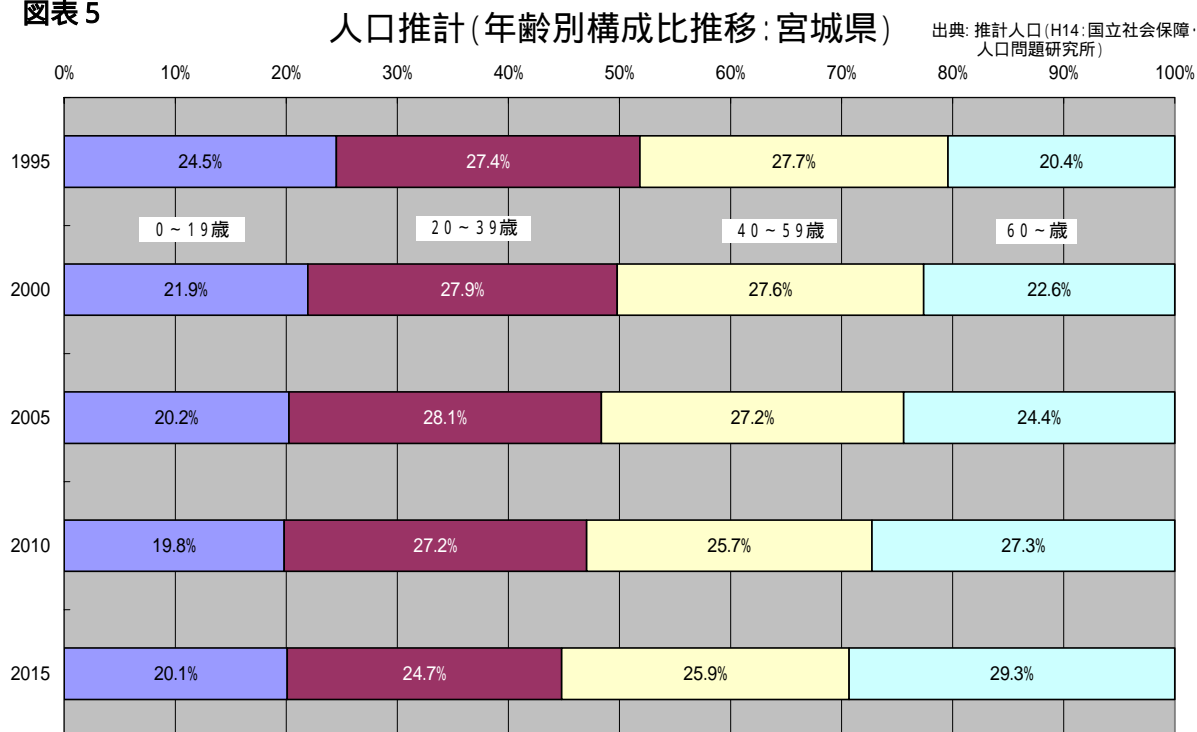
出典:推計人口(H14:国立社会保障・人口問題研究所)



図表 4



図表 5



## (2) 団塊の世代の動向

経済的にも時間的にも余裕のある「団塊の世代」の退職に伴い、「アクティブシニア」とか「スマートシニア」と呼ばれる元気高齢者の層が今後増加することが予想されています。

民間調査機関が実施した「60歳を過ぎてからの人生で、やってみたいこと」では、「国内外の旅行」が68.4%と一番高く、「自然散策、ハイキング、まち歩き」や「田舎暮らし、都会暮らしの行き来」等へのニーズも高い傾向にあります。

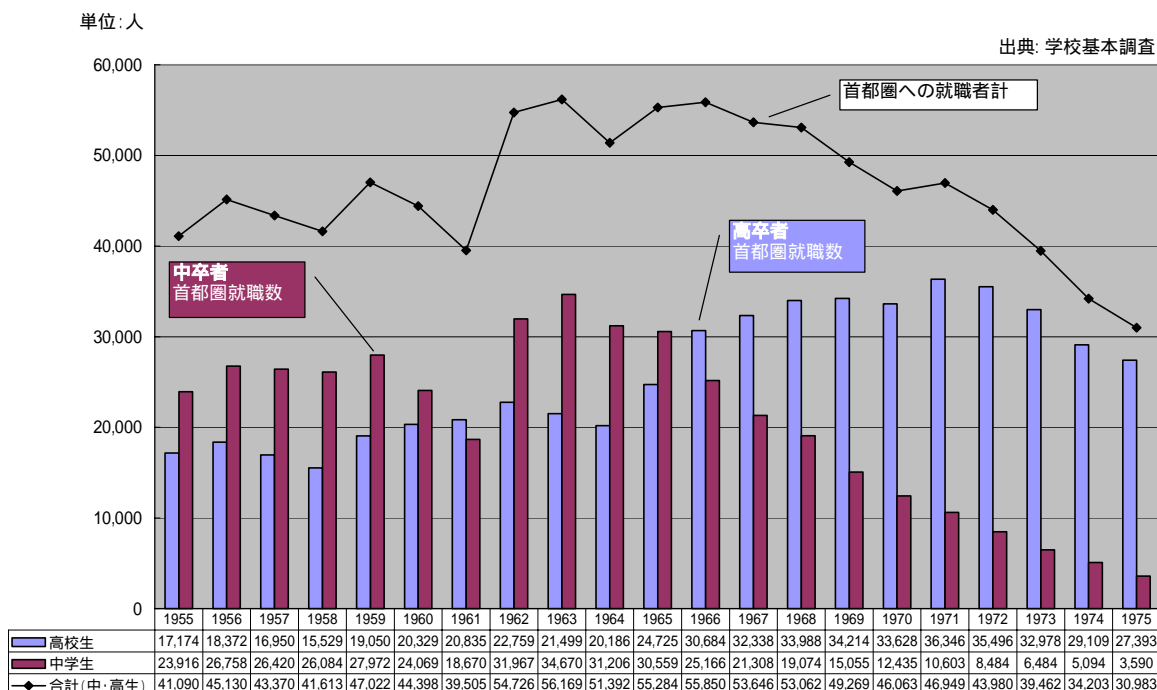
また、「団塊の世代」の行動形態が地域にもたらず経済効果が注目されており、多様化する旅行スタイルやニーズに対応した施策が求められています（図表6～7）。

### 【参考】

「団塊の世代」が就職した時期を含む'55～'70年の間に東北6県から首都圏へ就職した人数は、下図に示したとおりで、約77万人超となっている。東北出身者のUJターンはもとより、他地域からのIターンも視野に入れて滞在型の施策展開を図っていく必要がある。

図表6

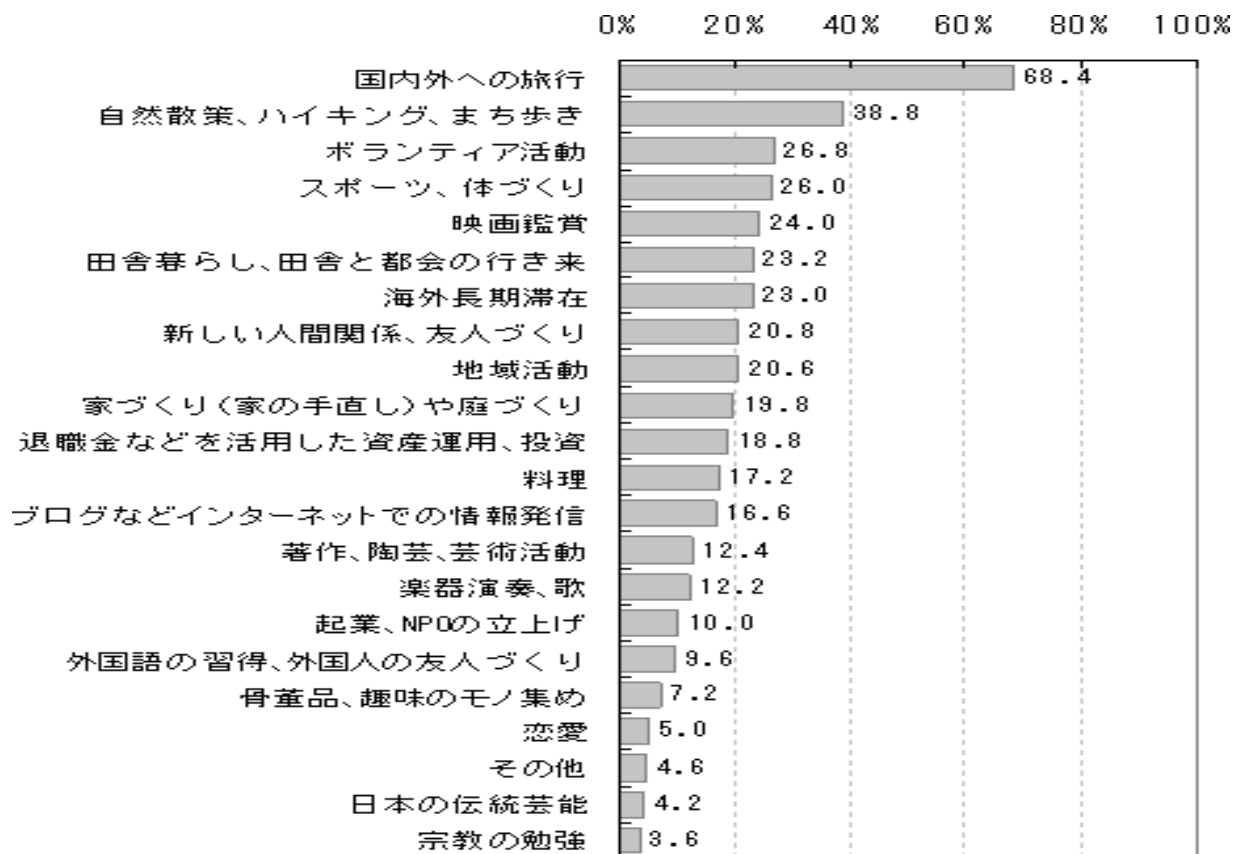
卒業年次別 東北から首都圏への就職者数(中・高卒)



図表7

60歳を過ぎてからの人生で、やってみたいこと

(団塊の世代のセカンドライフに関するアンケート結果)



出典：株式会社野村総合研究所（'05.11.18 ニュースリリース）

**(3) 旅行形態の変化**

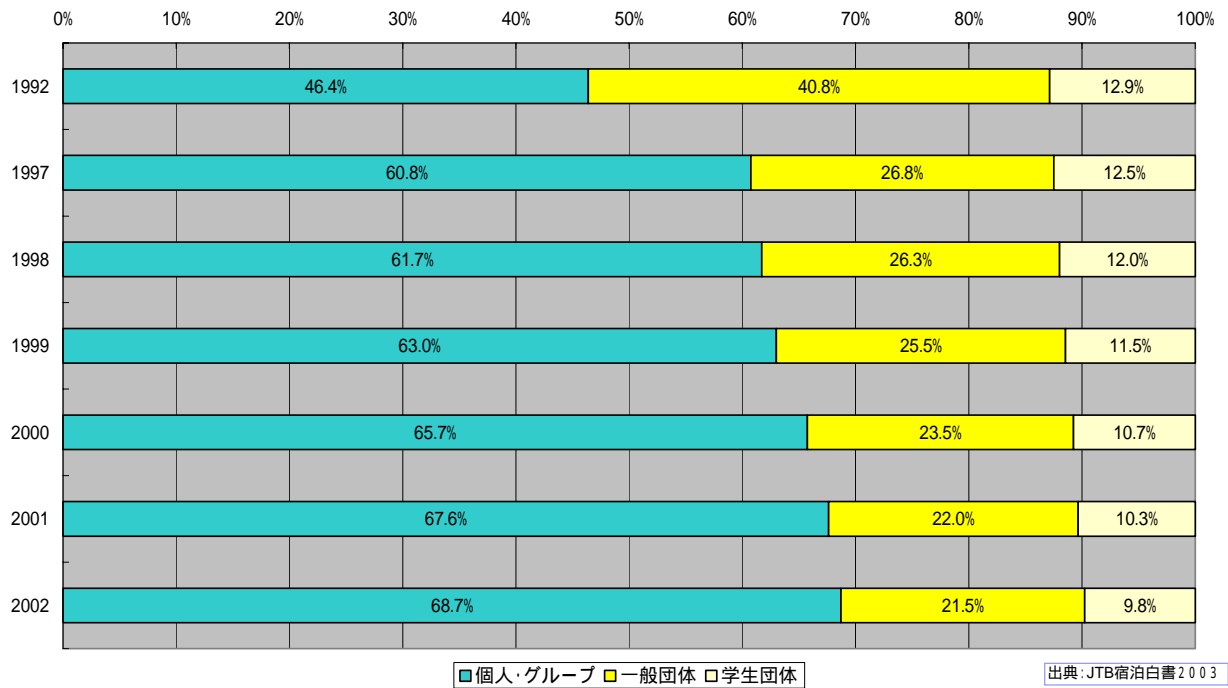
従来の団体旅行からオリジナリティのある個人旅行へ、高速交通体系の整備等による日帰り旅行の増加、見る観光から触れる観光へ、「学ぶ」・「体験」・「癒し」等への指向により、有名観光地巡りから歴史探訪やそばづくり等、テーマ性・体験型を組み込んだ旅行需要の増加など、旅行者のニーズは大きく変化してきています。

宮城県を訪れる観光客の傾向として、同行者別類型では、大人の親子連れ・子育て後の夫婦・カップル・男性一人（ビジネス客を含む）等が全国平均に比べて多い一方で、小学生連れ・3世代家族旅行等は少ない傾向にあります（図表8～13）。

このような旅行形態や旅行者ニーズの特徴を的確にとらえて対応していくことが重要です。

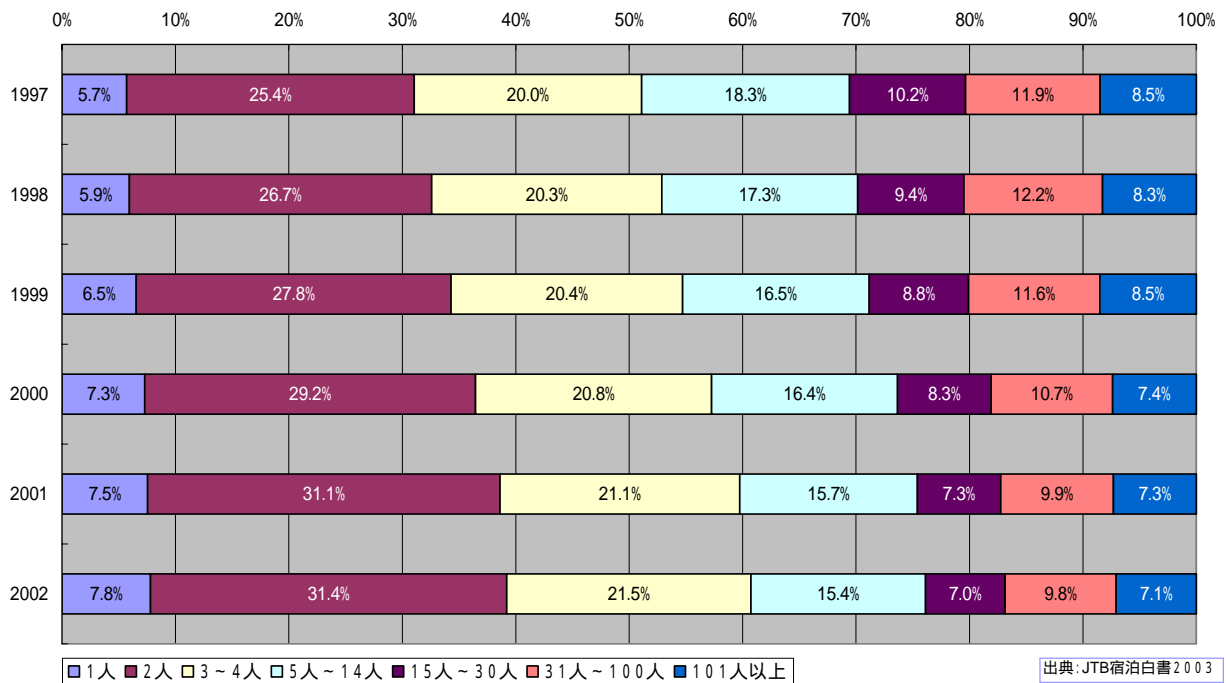
図表 8

旅行形態別宿泊者数シェア推移



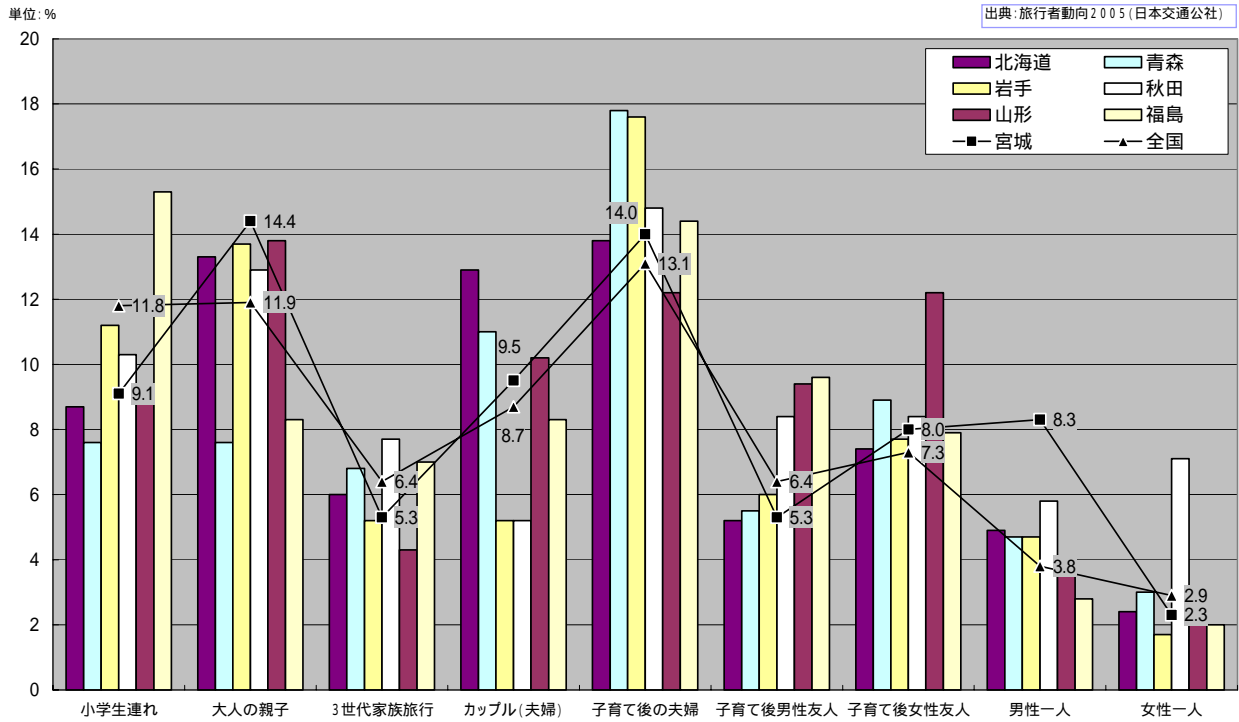
図表 9

同行人数別宿泊人数シェアの推移 (学生団体を除く)



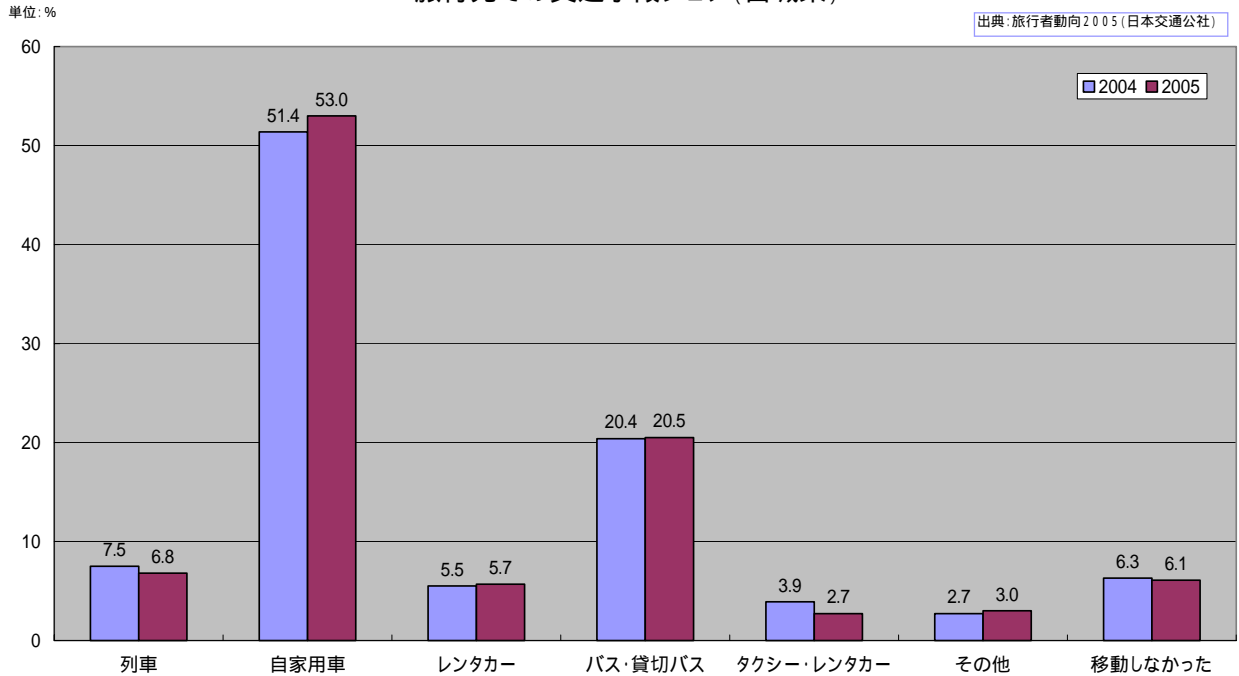
図表 10

旅行先(都道府県)別の同行者タイプシェア



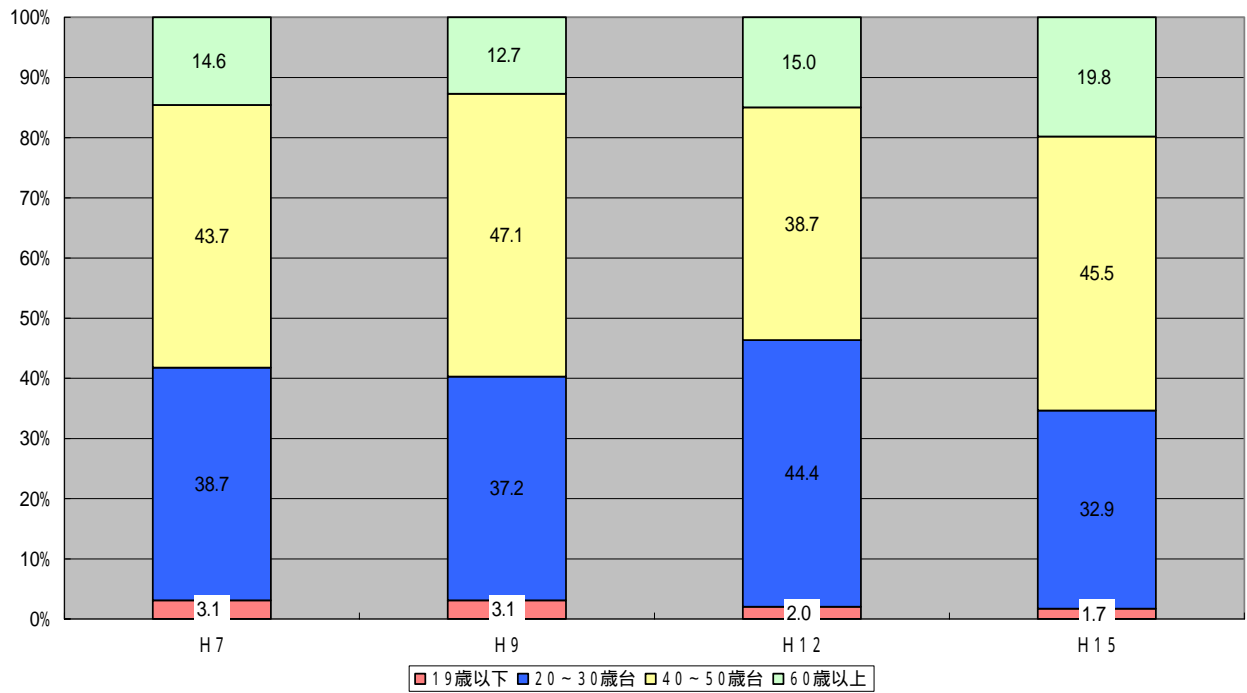
図表 11

旅行先での交通手段シェア(宮城県)



図表 12

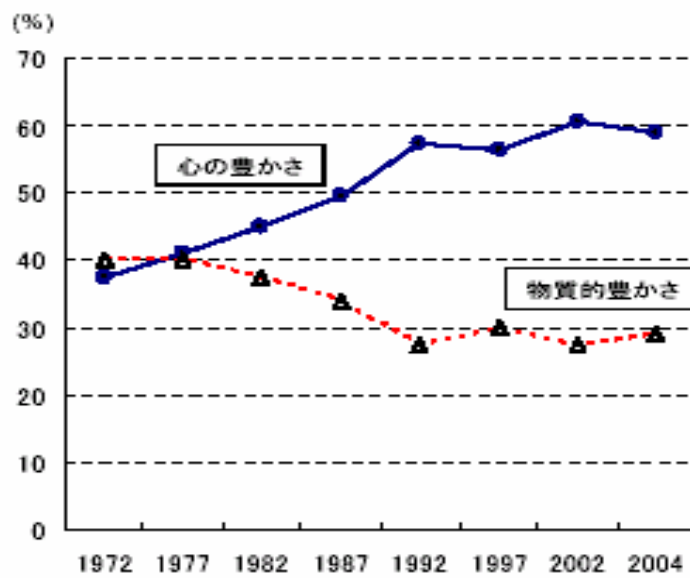
観光客の年齢構成の推移



出典：宮城県観光動態調査

図表 13

心の豊かさか物質的豊かさか



出典：内閣府「国民生活に関する世論調査」(H14)



#### (4) 地域間競争の時代

交流人口の拡大は、地域経済の発展や異文化交流、地域の再発見等、地域にもたらす効果が大きいと考えられています。

少子高齢社会にあつて、人口増加施策の展開は極めて困難です。しかし、二地域居住（マルチハビテーション<sup>1</sup>・週末居住等）や移住・定住を促進することによる地域活性化など代替的な施策が求められており、交流人口の拡大施策については、地域同士が競い合う「地域間競争」の時代となつてきています（図表14）。

他方、「旅行者に県境はない」ことを考慮すれば、まず、宮城県のみならず東北全体へ訪れる観光客を増やすことが重要であり、いたずらに観光客の奪い合いをすることは東北の観光に関するイメージを損なう可能性もあります。よつて、東北6



仙台空港アクセス鉄道車両

県や近県が一体となつてのプロモーション活動や観光資源の提示など、更なる連携が必要です。

宮城県は、高速道路・新幹線・仙台空港・仙台港が整備されており、また、平成19年3月には仙台空港アクセス鉄道が開業する見込

みであるなど、東北地方における高速交通体系のゲートウェイ<sup>2</sup>機能を十分に備えています。

このため、宮城県の役割として、他県と協働して受入態勢整備や県境を越えた広域連携を働き掛けるなど、東北全体を視野に入れた取組を先頭に立って実施していくことが求められています。



仙台空港アクセス鉄道イメージ

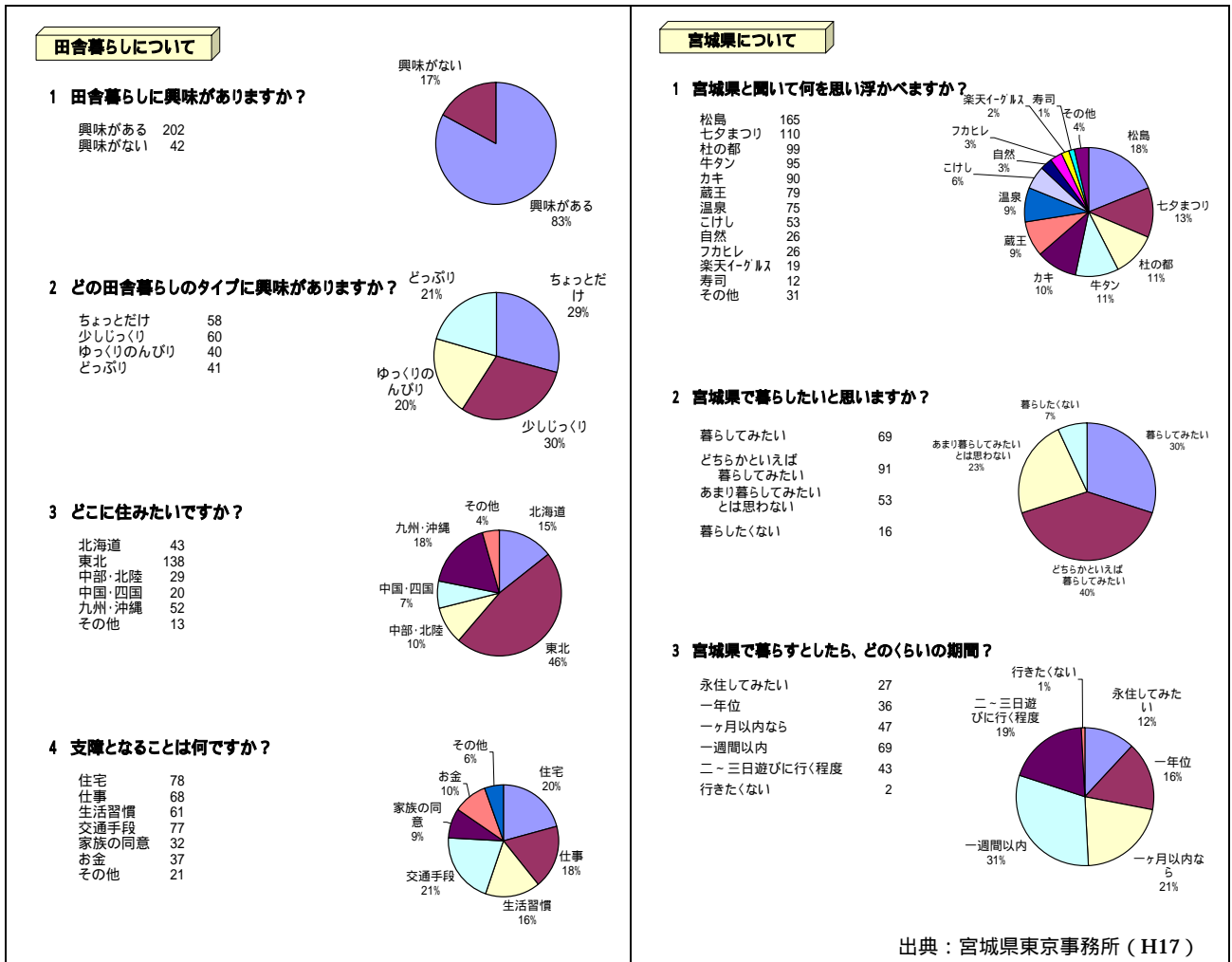
さらに、行政間の組織づくりへの積極的な関与はもとより、官民の協働組織や地域間の連携づくり等の体制の整備や役割分担を明確にすることも必要です。

1 都市と田舎など複数の住まいを確保し、必要に応じて住み分けること。

2 門、出入り口。ここでは、東北から他都市へ、又は他都市から東北への移動の玄関口であることを意味する。

図表 14

首都圏在住者へのアンケート



## 内的要因（本県の現状と課題）

### (1) 低い（少ない）情報発信

**観光資源（素材）は豊富だが、その魅力が効果的に情報発信されていない**

観光振興において、情報の果たす役割は極めて大きいものがあります。

平成 16 年におけるインターネット利用者は、7,948 万人（情報通信白書：平成 16 年）と推計され、インターネットを通じての観光情報の収集や宿泊予約が急速に伸びています。今後、パソコンのみならず携帯電話の普及・高度化やカーナビゲーション等の多様な高度情報通信機器を活用した情報収集傾向は、一層強まるものと考えられます（図表 15・16）。

宮城県は、東に太平洋、西に奥羽山脈が連なり、海・山・川・里の豊かな自然に恵まれ、日本三景の松島、百万都市仙台、「お釜」で有名な蔵王、ふもとには鳴子・作並・秋保等の温泉郷を有しています。また、高級食材のフカヒレ、名物の牛タン、サンマや牡蠣等の豊富な海産物や宮城米など多くの食材があり、まさに「食材王国みやぎ」といえます。さらに、温かみのある人、伊達政宗公や松尾芭蕉など歴史や文化における豊かな資源も有しています。

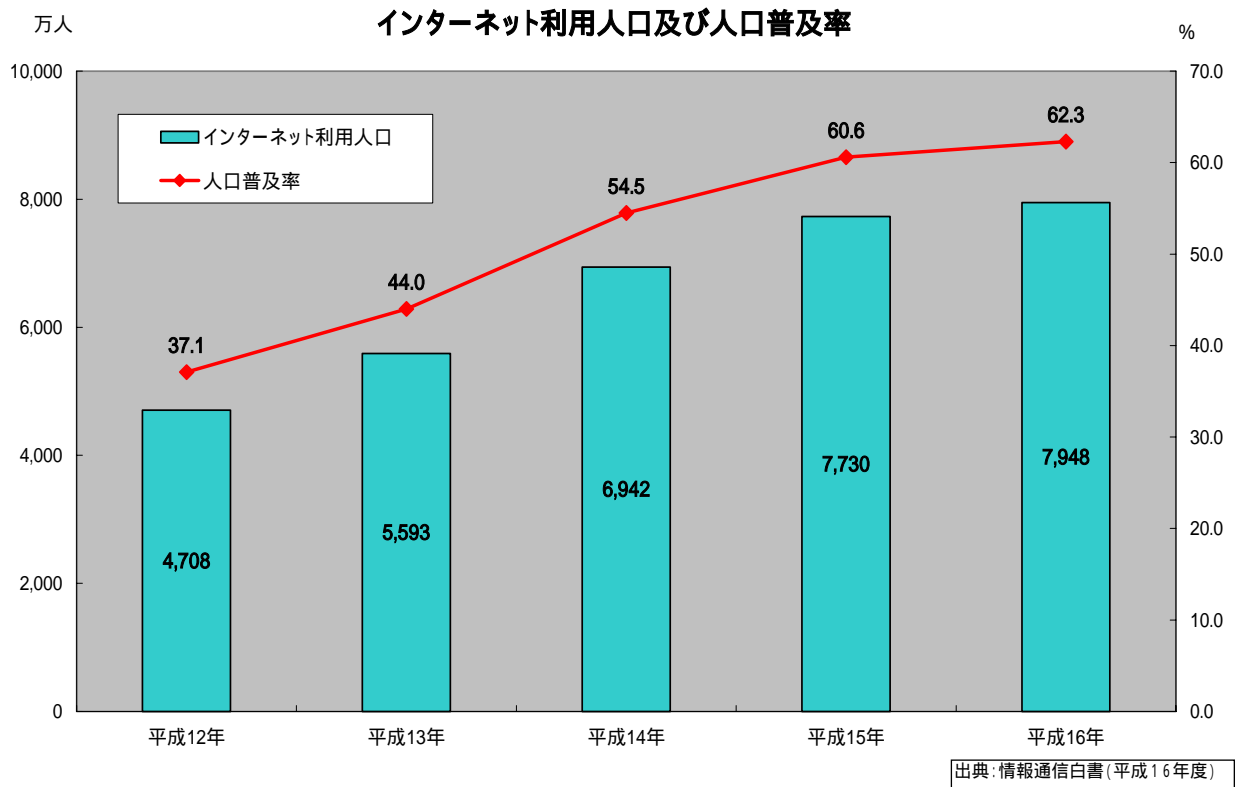
県では、「スマイルあったか宮城観光案内所」の活用を図るとともに、イベントや地域資源のメディアへの観光情報提供等を実施しています。

しかし、歴史や文化に特化した内容・テーマや、団塊の世代を含むシニア層を対象とするなどのカテゴリー<sup>1</sup>を踏まえた情報発信は未実施であり、外国人観光客への「i 案内所<sup>2</sup>」なども十分ではありません。今後、旅行者ニーズに対応した地域の魅力を伝える情報発信を効果的に行う必要があります。

1 種類、範囲

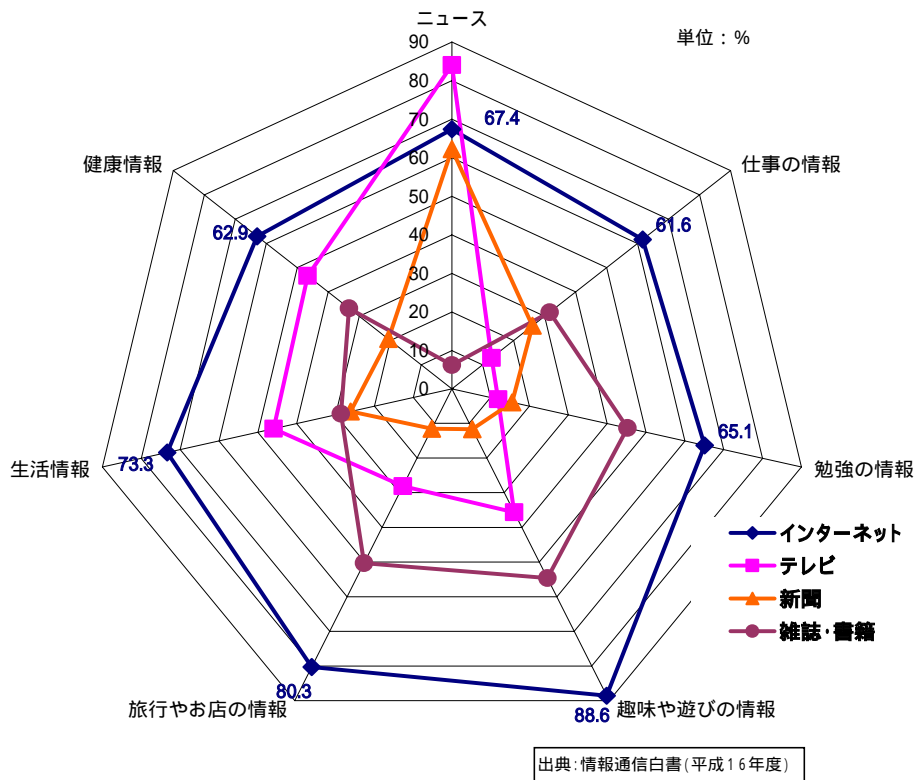
2 外国人旅行者の対応可能な観光案内所のうち、一定の基準を満たしている案内所

図表 15



図表 16

情報メディア別の情報収集用途(複数回答)



## (2) 「地域で もてなす」意識の不足

**「住んでいる地域に誇りを持ち、訪れる人に地域の良さを伝え、もてなす」という意識が不足している**

交流人口の増加がもたらす効果を把握し、その恩恵を享受することが、これからの地域づくりや観光地づくりを進める上で不可欠なことです。

地域の活力は、地域に住んでいる人はもとより、観光等の目的を持って訪れる人々との交流によって、生み出されるものです。

国の観光立国行動計画では「住んでよし 訪れてよしの国づくり」を提唱しており、まず、自らの地域を再認識し、誇りを持ち、訪れる人に地域の良さを伝えるなど「地域でもてなす」ことが必要であり、「また行こう」、「また行きたい」と思ってもらうことが重要です。

しかし、他の地域の人から見れば魅力的なもの（資源）でも、地元では気付かずに「もてなすものがない（魅力がない）」と考えている場合も少なくありません。

地域全体で観光客を「もてなす」ためには、自らの地域に関する新たな着想をいかに生み出していくかが今後の大きな課題です。

## (3) 観光がもたらす効果への認識不足

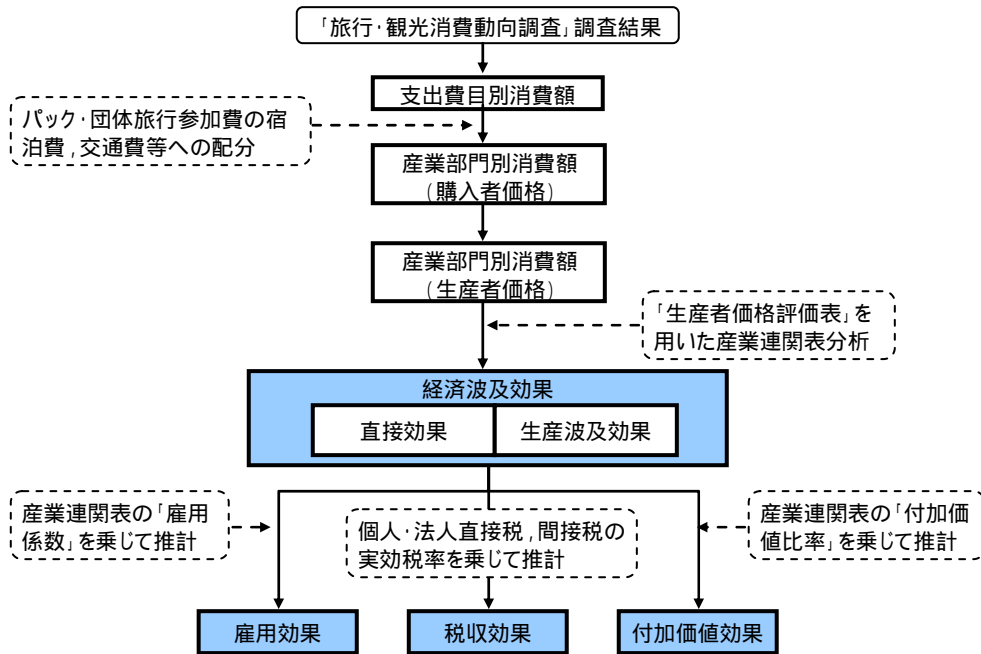
**観光がもたらす効果（経済効果・異文化交流等）はすそ野が広く、かつ、大きいですが、そのことが十分理解されていない**

国の調査研究によれば、旅行消費が生み出す雇用者数は、全国で 469 万人と推計され、直接雇用効果が全雇用の 3.6%（229 万人）、生産波及効果や付加価値効果ももたらす雇用効果と併せ、全雇用の 7.4%に相当するとされています。

また、税収効果においても旅行消費によって国税・地方税を合わせ 5.0 兆円と試算されています（図表 17・18）。

図表 17

旅行・観光産業の波及効果推計の流れ

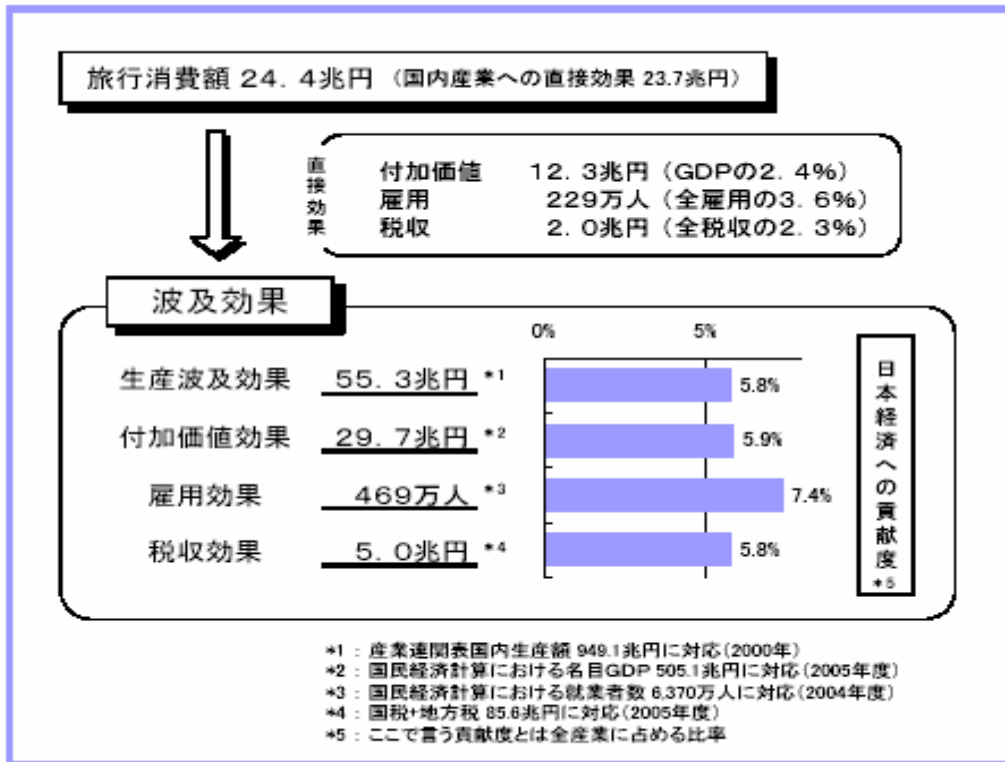


出典：「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」

(H17：国土交通省総合政策局)

図表 18

旅行消費が我が国にもたらす経済波及効果

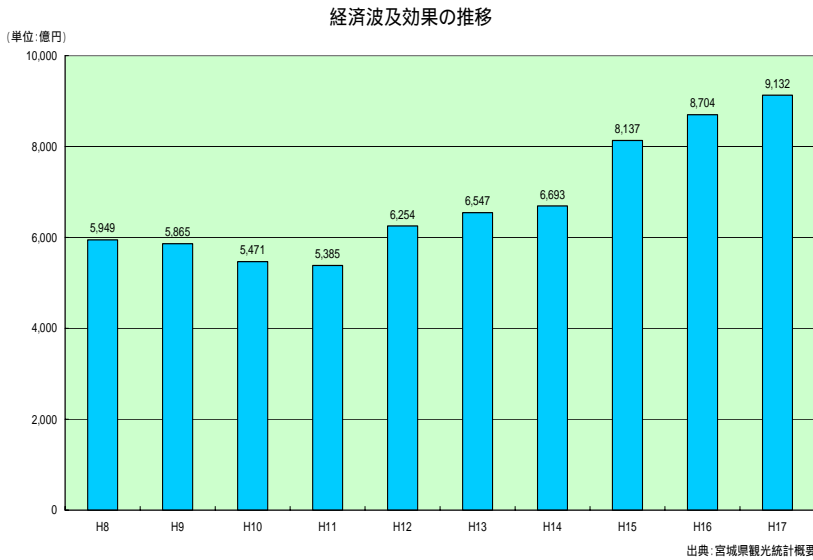


出典：「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」

(H17：国土交通省総合政策局)

本県における観光産業がもたらす経済的効果は、宮城県観光動態調査（H15 実施）に基づく試算において、平成 17 年の観光直接消費額（宿泊費，飲食費，おみやげ代など）は 5,284 億円，各種産業への波及効果は 3,848 億円，合計 9,132 億円と見込んでいます（図表 19）。

図表 19



また，日帰り観光客の一人当たり消費額が平均 7 千円，宿泊観光客の平均が約 42 千円であることから，日帰り観光客数が 100 万人，宿泊観光客が 10 万人増加すると想定した場合，112 億円（日帰り 70 億円 + 宿泊 42 億円）の経済効果が発生し，農林水産業・輸送・娯楽サービス・食料品等への波及効果 79 億円を合わせて 191 億円分の経済効果が誘発されます。

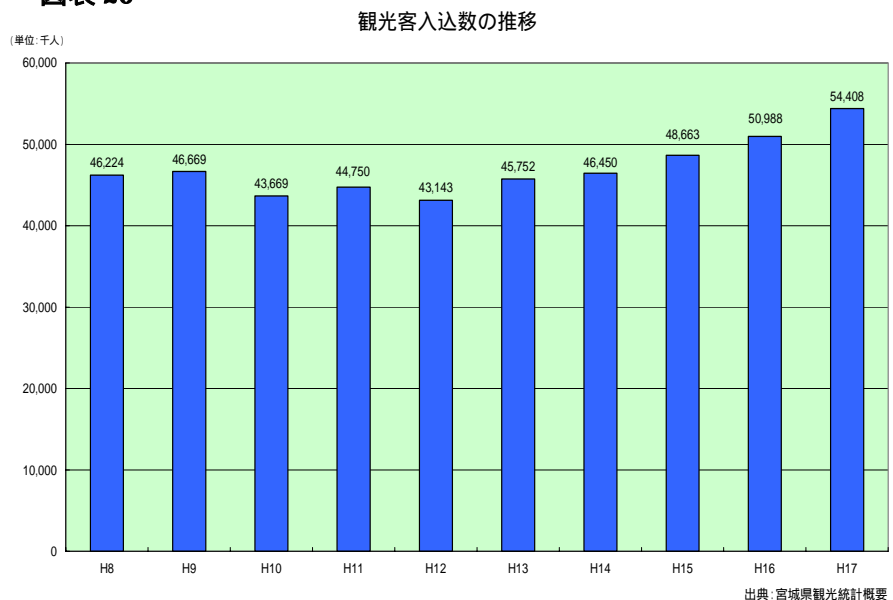
このように，観光産業が県の経済にもたらす効果・貢献度は大きいものの，これまで観光客入込数（図表 20）や宿泊観光客数（図表 21）の推移と経済効果との関係について，県民に効果的に P R され

ておらず，十分に理解されていない実情でした。

したがって，今後，このことを県民に

十分浸透させていくことが大きな課題であり，また，初等・中等教育の場においても，将来を担う子どもたちが副読本等を通して理解を深めることが重要です。

図表 20



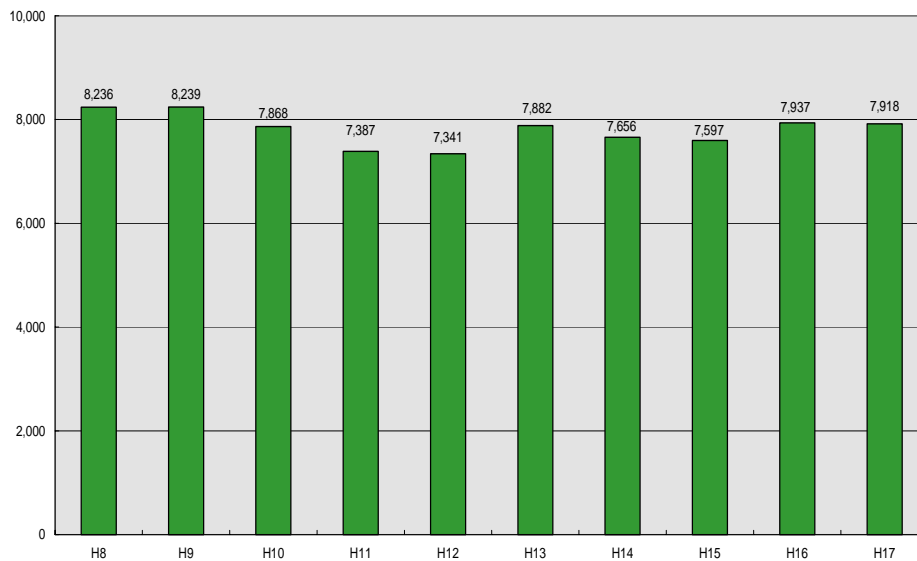
【参考】

宮崎県では、(財)みやざき観光コンベンション協会が「宮崎観光副読本」として、小中学生に配布している。

図表 21

宿泊観光客数の推移

(単位:千人)



出典:宮城県観光統計概要



#### (4) 「地域の魅力」の未活用

**地域には魅力的な観光資源が多くあるが、有効に活用できていない**

優れた観光地とは、単に有名な観光名所があるということだけではありません。住民には見慣れた当たり前のものでも、他の地域の人には魅力的に見える資源が数多く存在します。自分のまちや地域の「なりわい」、「くらし」そのものが、訪れる人にと



鳴子温泉

とって「原風景」、「異文化」、「非日常」等としての魅力を感じさせるものです。

そこで、住民が自らの地域の魅力に気づくことが必要です。「住んでよし」の地域にするためには、まず、住んでいる人の満足がなければ訪れる人への満足を与えることはできません。

みやぎには、おいしい米や牡蠣やフカヒレ等の海産物、蔵王連峰や栗駒山等の豊かな自然、様々な泉質を有する鳴子や秋保などの温泉郷、伊達政宗公や松尾芭蕉などの歴史や文化、国際的には「近代中国の父」といわれる文豪「魯迅」が学んだ学都仙台、「七夕」、「塩竈港まつり」等の祭りや野球・サッカー・バスケットボール・女子レスリングのプロスポーツ観戦、さらには、仙台フィルハーモニー管弦楽団を中心とする音楽芸術など多くの魅力がありながら、観光のための資源としては十分に活用しきれていないのが現状です。

地域の資源を見つめ直し、既にあるものを磨く、また、他地域との連携を積極的に行うなど地域の魅力を有効に活用し、つなげていくことが課題です。



ユアテックスタジアム仙台



七 夕



蔵王のお釜



宮城の温泉

“みやぎ”の強み(例)

温 泉	秋保温泉 作並温泉 小原温泉 鎌先温泉 遠刈田温泉 鳴子温泉
観 光 地	松 島 蔵王連峰 仙台城址 登米教育資料館 栗駒山 三陸海岸
食 材	牛タン フカヒレ 宮城米 寿 司 ずんだ餅 笹かまぼこ
祭・イベント	七 夕 定禅寺ストリートジャズフェスティバル 初売り 青葉まつり みなとまつり 塩竈神社帆手祭
プロスポーツ・芸 術 文 化	東北楽天ゴールデンイーグルス(野球) ベガルタ仙台(サッカー) 仙台89ers(バスケット ボール) 仙台ガールズプロレスリング 仙台フィルハーモニー管弦楽団